処方せん医薬品：注意ー医師等の処方せんにより使用すること
プロトンポンプ阻害剤 ［薬価基準収載］
パリエット® 錠10mg 錠20mg
〈ラベプラゾールナトリウム製剤〉 www.pariet.jp

製造販売元 Eisai エーザイ株式会社
東京都文京区小石川4-6-10
製品情報お問い合わせ先：エーザイ株式会社 お客様ホットライン
フリーダイヤル 0120-419-497 9～18時（土、日、祝日 9～17時）

● 効能・効果、用法・用量及び禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

PRT1206C02

劇薬
処方せん医薬品：注意ー医師等の処方せんにより使用すること ［薬価基準収載］
グルカゴンGノボ 注射用 1mg
Glucagon G Novo 1mg
グルカゴン（遺伝子組換え）製剤
製造販売元
ノボ ノルディスク ファーマ株式会社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-1-1
販売元
エーザイ株式会社
東京都文京区小石川4-6-10
商品情報お問い合わせ先：エーザイ株式会社 お客様ホットライン
0120-419-497 9～18時（土、日、祝日 9～17時）
●効能・効果、用法・用量及び禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。
Eisai novo nordisk®
GLG1009C02

「第14回臨床消化器病研究会」開催のお知らせ
消化管の部 症例募集のお知らせ

消化管の部 ［3セッション］

■8:50～10:40
主題1 食道：「びらん・潰瘍を呈する食道病変」
司　会：小山 恒男先生（佐久総合病院 胃腸科）
門馬 久美子先生（がん・感染症センター都立駒込病院 内視鏡科）
病理指導：大倉 康男先生（杏林大学医学部 病理学教室）

■10:50～12:40
主題2 胃：「胃底腺領域の陥凹性病変」
司　会：飯石 浩康先生（大阪府立成人病センター 消化管内科）
後藤田 卓志先生（東京医科大学 消化器内科）
病理指導：岩下 明徳先生（福岡大学筑紫病院 病理部）

■13:55～15:45
主題3 小腸：「びらん・潰瘍を呈する小腸病変」
司　会：松本 主之先生（九州大学大学院 病態機能内科学）
山本 博徳先生（自治医科大学附属病院 消化器センター）
病理指導：味岡 洋一先生（新潟大学大学院 分子・診断病理学）

肝胆膵の部 ［3セッション］

■8:50～10:40
主題1 肝：「肝嚢胞性病変」
司　会：熊田　卓先生（大垣市民病院 消化器内科）
廣橋 伸治先生（大阪暁明館病院 放射線科）
病理コメンテーター：坂元 亨宇先生（慶應義塾大学医学部 病理学）
画像コメンテーター：蒲田 敏文先生（金沢大学 放射線科）

■10:50～12:40
主題2 胆：「胆嚢壁肥厚性病変の鑑別診断 ―10年間の進歩を検証する―」
司　会：花田 敬士先生（尾道総合病院 内視鏡センター）
佐野 圭二先生（帝京大学医学部 外科学講座）
病理コメンテーター：柳澤 昭夫先生（京都府立医科大学 人体病理学）
画像コメンテーター：吉満 研吾先生（福岡大学医学部 放射線医学教室）

■13:55～15:45
主題3 膵：「非典型的な画像所見を呈した膵管癌」
司　会：糸井 隆夫先生（東京医科大学 消化器内科）
渡邊 五朗先生（虎の門病院 消化器外科）
病理コメンテーター：福嶋 敬宜先生（自治医科大学附属病院 病理診断部）
画像コメンテーター：角谷 眞澄先生（信州大学医学部 画像医学講座）

2013年7月20日（土）8:45～15:55（予定）
グランドプリンスホテル新高輪
「国際館パミール」3階「北辰・崑崙」
〒108-8612 東京都港区高輪3-13-1 TEL 03-3442-1111 FAX 03-3444-1234

参加資格 オープン　会場費 3,000円

共催：臨床消化器病研究会
〈事務局〉「消化管の部」福岡大学筑紫病院 消化器内科
「肝胆膵の部」手稲渓仁会病院 消化器病センター
エーザイ株式会社（担当：医薬マーケティング部 消化器領域室）
臨床消化器病研究会HP http://netconf.eisai.co.jp/rinsho-shokaki/

第14回臨床消化器病研究会
「消化管の部・演題募集」について

消化管の部では、主題２:「胃」のみ検討する症例を公募いたします。
（主題1:「食道」、主題3:「小腸」は指定演題のため、公募はいたしません）

消化管の部　主題症例募集

「主題のねらい」に即した症例があれば、「症例申込票」・「画像・病理データ」をCDに保存のうえ、事務局宛にお送りください。

※「症例申込票」は、エーザイ株式会社担当者または、臨床消化器病研究会HP（http://netconf.eisai.co.jp/rinsho-shokaki/）より入手願います。

締め切り：2013年5月17日（金）

送付先：臨床消化器病研究会（消化管）事務局
福岡大学筑紫病院 消化器内科 平井 郁仁 宛
〒818-8502 福岡県筑紫野市俗明院1-1-1
TEL：092-921-1011　FAX：092-929-2630
e-mail：syokaki@fukuoka-u.ac.jp

本研究会では、各セッションの模様をDVDに収録し、研究会終了後に希望者に貸出します。応募にあたっては、予めご承知おきください。

注意事項

1）「抄録」

※「臨床消化器病研究会 症例申込票」を使用し、以下の項目を必ずご記入願います。

- 応募する「領域」「主題」
- 演題名、所属、氏名
- 症例の要旨（400文字以内）
- 症例申込票とともにお送りいただく資料の種類、枚数（資料別）

2）「画像・病理データ」

※Powerpointで作成し、以下の画像・病理データをご提出願います。

- 画像所見（X線所見、内視鏡所見など）
- 切除標本所見（マクロ）
- 病理組織所見（ミクロ）
- その他、症例検討に必要な資料

※病理標本現物（プレパラート）は、送付しないでください。

3）「症例申込票」、「画像・病理データ」は、CDに保存の上、提出願います。

第14回臨床消化器病研究会（消化管の部）主題のねらい

主題1 指定演題

食道：「びらん・潰瘍を呈する食道病変」

司　会：小山 恒男先生（佐久総合病院 胃腸科）
門馬 久美子先生（がん・感染症センター都立駒込病院 内視鏡科）
病理指導：大倉 康男先生（杏林大学医学部 病理学教室）

日常診療にて食道に潰瘍性病変を認める事は稀だが、びらんに遭遇する事は多々あり、時に鑑別に苦慮する。頻度的には逆流性食道炎が多いが、扁平上皮癌、Barrett's食道癌でもびらん・潰瘍を形成し得る。また、ベーチェット病やクローン病、好酸球性食道炎などの全身性疾患に伴う症例や、ヘルペスやサイトメガロなどの感染症でもびらん・潰瘍は形成される。

本セッションではびらん・潰瘍を呈する食道病変の症例検討を行い、びらん・潰瘍を呈する食道病変の鑑別診断に迫りたい。

主題2 公募演題

胃：「胃底腺領域の陥凹性病変」

司　会：飯石 浩康先生（大阪府立成人病センター 消化管内科）
後藤田 卓志先生（東京医科大学 消化器内科）
病理指導：岩下 明徳先生（福岡大学筑紫病院 病理部）

胃癌大国日本でもピロリ非感染胃粘膜に遭遇することが普通になってきた。つまり背景胃粘膜が変化してきたのである。それ故に胃癌診断という意味では、萎縮のない胃粘膜を眼前にして我々自身の内視鏡観察も混乱していることに気付かされる時がある。胃癌診断学は萎縮変化を背景にした色調や表面の微小変化を観察することで進歩してきたが、以前の診断学を再考する（進歩させる）時期にきていると思われる。

このような背景を踏まえ、今回は胃底腺領域つまり非ないし軽度萎縮胃粘膜に存在する陥凹性病変に注目することで新たな時代に適応した胃内視鏡観察について実際の症例を通して新時代の胃粘膜診断について議論したい。なお、興味ある病変や日常臨床において鑑別に苦慮した病変などの応募を期待する。

主題3 指定演題

小腸：「びらん・潰瘍を呈する小腸病変」

司　会：松本 主之先生（九州大学大学院 病態機能内科学）
山本 博徳先生（自治医科大学附属病院 消化器センター）
病理指導：味岡 洋一先生（新潟大学大学院 分子・診断病理学）

小腸にびらん・潰瘍が発生する疾患としてクローン病、腸管ベーチェット病・単純性潰瘍、非特異性多発性小腸潰瘍症などの原因不明慢性炎症性疾患、腸結核などの感染性疾患、癌、リンパ腫などの腫瘍性疾患、NSAIDs潰瘍などの薬剤性腸炎、虚血性腸炎などが挙げられる。一方、バルーン内視鏡やカプセル内視鏡の普及により、小腸病変に遭遇する機会が増加した。なかでも、小腸内視鏡検査の適応である消化管出血例では、びらん・潰瘍を呈する病変が少なくない。しかし、従来の小腸疾患の診断学はX線所見に基づいており、内視鏡検査で発見される小病変の鑑別の進め方は未だ確立されてはいないのが現状である。加えて、小腸内視鏡の導入により改めて注目されている疾患や、その存在が明らかとなった疾患も少なからず存在する。そこで、本セッションでは消化管専門医が知っておくべき小腸疾患の内視鏡所見と病理学的特徴を提示頂き、X線・内視鏡所見からみた小腸のびらん・潰瘍の鑑別に関する理解を深めたい。可能な限り数多くの画像をご覧頂きたいと考えている。